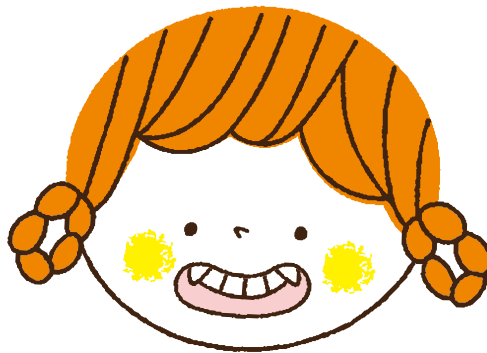


うけくち



やえは



でっば



写真で
わかる

子どもの

矯正治療ガイド

お子さんの口の中、こうなっていないませんか？

石川 基 著



でこぼこ



歯が足りない

医歯薬出版株式会社

子どもの年齢別チェックリスト

子どもの口の中は、歯の生え替わりやあごの成長などでどんどん変化していきます。必要な治療が適切な時期に受けられるよう、時々チェックしましょう。

5 歳

- 指しゃぶり, 口呼吸をしている → 42ページ
- 唇をかんだり, 舌を歯に押しつける癖がある → 42ページ
- 乳歯が抜けない → 20ページ

6 歳

- 乳歯が早くに抜けてしまった(むし歯, けが以外で) → 12ページ
- 上の奥歯が変な位置に生えてきた → 14ページ
- 歯のすき間が目立つ → 28ページ
- 前歯が1本飛び出ている → 32ページ
- 下の前歯が2~3本前に出ている → 36ページ
- 前歯がかみ合わない → 38ページ
- 噛み合わせが深すぎる → 40ページ
- 奥歯のかみ合わせがおかしい → 44, 46ページ

7 歳

- 大人の前歯が生えてこない → 16, 18, 22ページ
- 歯並びがデコボコしている → 26ページ

8 歳

- 出っ歯 → 30ページ
- 受け口・しゃくれ → 34ページ

9 歳

- 大人の奥歯が生えてこない → 16, 18, 24ページ

11 歳

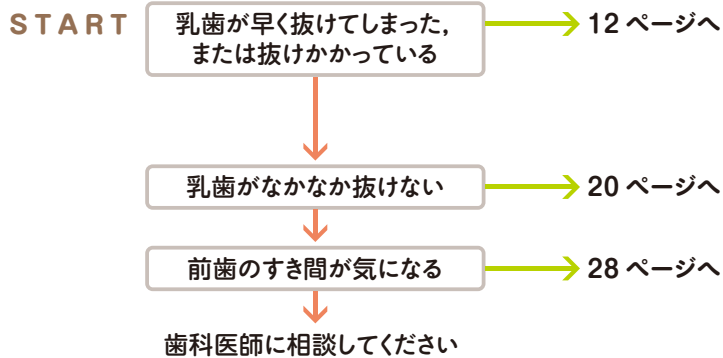
- 奥歯がかみ合わない → 48, 50ページ
- 下の奥歯が変な位置に生えてきた → 52ページ

お子さんの口の中，気になるのはどこですか？

Yes/Noチャートで見たいページがすぐわかる

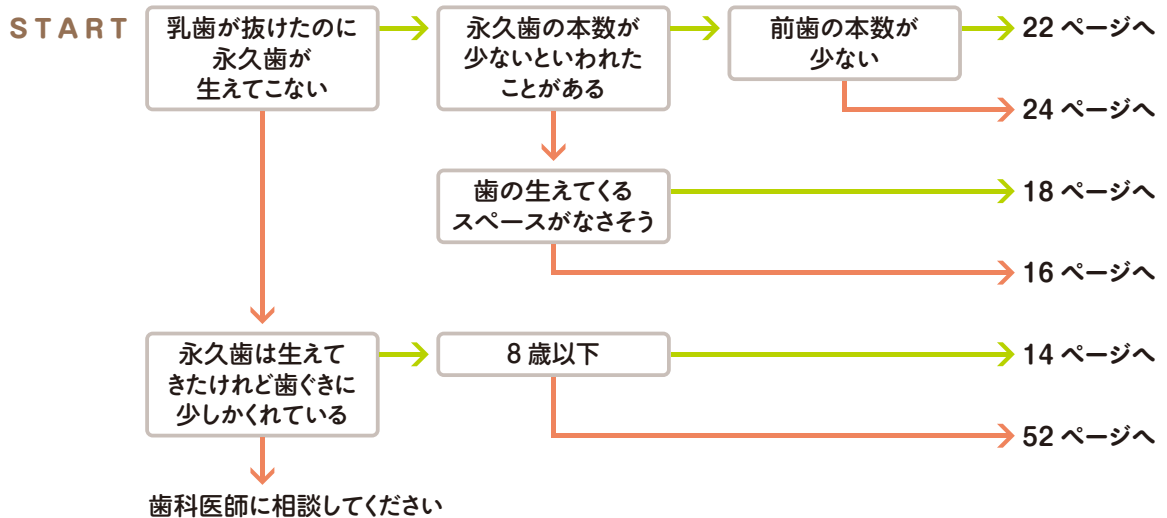
A. 乳歯で気になるところがある

Yes → No →



B. 永久歯の生え方で気になるところがある

Yes → No →



子どもの歯が早くに抜けてしまった（乳歯の早期脱落）

乳歯の早期脱落とは

むし歯やけが以外の原因で、大人の歯（永久歯）に生え替わる時期よりも早く、子どもの歯（乳歯）が抜け落ちてしまうことをいいます。

乳歯の早期脱落の特徴

- 隣の永久歯が傾いて生えてきたり、変な位置に生えてきたりする（異所萌出→14ページ）と、乳歯の早期脱落が起こりやすくなります。
- 乳歯が早くに抜けたまま放っておくと、隣の歯が寄ってきて永久歯の歯並びがデコボコになることがあります（右ページの写真）。

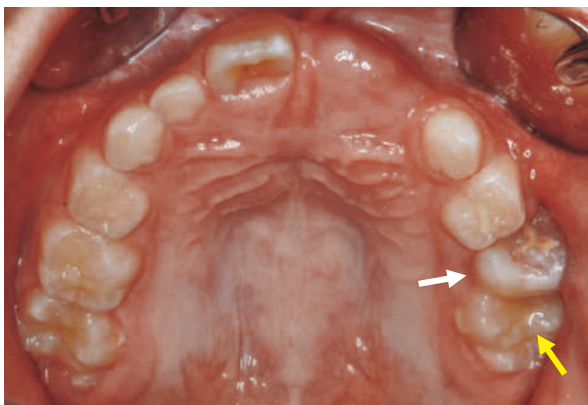
治療前



治療中



▲抜けた乳歯の両隣の歯を針金で固定し、これから生えてくる永久歯（点線）のためのスペースをできるだけ確保します



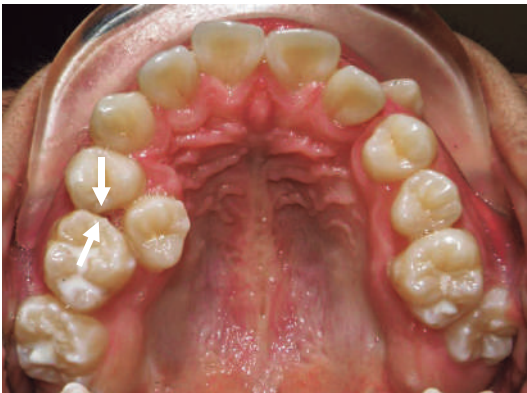
▲8歳の男の子。奥の永久歯（黄矢印）が傾いて生えてきて乳歯（白矢印）を押し、10～13歳で抜けるはずの乳歯がすでに抜けかかっていました

乳歯が早期脱落してしまった時の治療

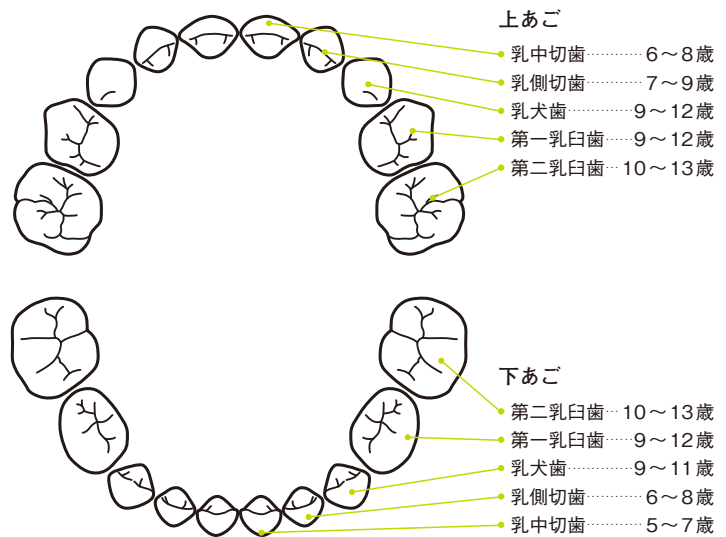
- 乳歯が抜けてしまった後に、その隣の歯同士を針金などで固定することがあります（抜けた乳歯の下から永久歯が生えてくるまで、隣の歯が寄ってこないようにするため）。
- すでに周りの歯が寄ってきてしまっている場合には、抜けた乳歯の下から永久歯がきちんと生えてこられるように、矯正治療を行うことがあります。
- 取り外し式の装置よりも、ブラケットのほうが効率よく治療できます（治療期間1～3年）。

ご家庭でのチェックポイント

- 右下の図を参考に、乳歯が抜けた時期を確認してみましょう。
- 明らかに乳歯が早く抜けてしまった場合、または明らかに歯が抜けるのが遅れている場合は、歯科医師に相談しましょう。



▲15歳の男子。傾いて生えてきた永久歯（第一大臼歯）に押されて乳歯が早期脱落し、後から生える永久歯のスペースがなくなり、歯並びがデコボコになったと考えられます



▲乳歯の生え替わりの時期

気をつけたい習慣

指しゃぶり、唇をかむ、舌を前歯に押しつける、口呼吸などは歯並びやかみ合わせにとってよくない習慣(癖)です。大人がする貧乏ゆすりやほおづえと同じように、お子さんも無意識にその癖を行っていることが多いでしょう。

このようなお子さんの癖を見つけた時には、ご家族や周囲にいる方から、癖をやめるように根気よく促してください。

1 指しゃぶり

- 小さいお子さんにとって、指しゃぶりは精神を安定させる効果があります。小学校に通う頃には自然にやめることが多いので、幼児期には無理にやめさせなくてもよいでしょう。
- ただし、大人の前歯が生えてからも指しゃぶりを続けていると、出っ歯になったり、歯並びがデコボコになる場合があるので、やめさせましょう。
- 指しゃぶりを気づかせる装置を歯科医院で作って入れることもできますが、ご家族の協力のもと、お子さん自身が癖をやめるための努力を根気よく続けることが大切です。

